

2019・12・7
千葉日報



来年の東京パラリンピックの正式種目となっている障害者スポーツ「シッティングバレーボール」の体験教室が、勝浦市立総野小学校で開かれた。同スポーツのチーム「千葉」にさまざまなスポーツを体験してもらおうと勝浦ロータリークラブ(齋藤麻美子会長)が主催。同小の6年生と市立豊浜小の

シッティングバレー挑戦

勝浦選手が魅力伝える 総野小

2020
東京
オリパラ

葉パイレーツ」代表の佐藤詠さん(56)と、選手の加藤朱美さん(45)が講師を務め、児童と一緒にプレーして座った状態でボールを追う競技の魅力を学んだ。

バレーボールと同じルール。東京パラでは具内が競技会場になっている。加藤さんは市内在住で、同チームに所属する夫の昌彦さん(50)

が日本代表候補選手に選ばれている縁で体験教室が実現した。佐藤さんらは、児童にトスやレシーブの上げ方を教えると、座ったまま前後左右に素早く動くコツを伝授。輪になってボールを回し、何回連続でできるか、両校に分かれて競争して練習した。試合も行われ、児童は飛んでくるボールを元気に追いかけて、打ち返していた。

勝浦RC 装具贈り、安全な練習指導

2019・12・10
千葉日報



比で野球教室

フィリピンの子どもたちに安全に野球を楽しんでもらおうと、勝浦ロータリークラブ(RC、齋藤麻美子会長)は、同国ダバオ市で野球教室を開いた。ヘルメットやプロテクターなど装具を贈り、けがなく上達で

きる練習方法を指導した。同国で野球は人気のスポーツ。硬球を使用しているが、布製のグローブを手にヘルメットやプロテクターなどを使わずに練習や試合をしているケースが多いという。球場には石や凹凸があることもあり、危険な環境を改善しようと、勝浦RCと勝浦市内にある野球塾のメンバー計12人で渡航し

フィリピンで開かれた野球教室(勝浦RC提供)

野球教室には、ダバオ市の野球協会に加盟する小中高生計約300人と指導者約20人が参加。勝浦のメンバーは安全にプレーするために装具の着用やグラウンド整備の重要性を強調し、けがを防止する準備運動の有効性を説いた。キャッチボールや素振りにも取り組み、子どもたちは装具を身に着けて元気に練習していた。

勝浦RCは現地の野球少年のためにグローブやボールのほか、硬式ヘルメット84個、胸部保護パッド105個、捕手用プロテクター12セットをプレゼント。担当者は「子どもたちは純粋で、アドバイスをよく聞いてくれた。楽しく安全に野球のレベルアップが図れば」と期待した。